

【生薬名】遠志[㊦] *POLYGALAE RADIX*

【起源植物】イトヒメハギ *POLYGALA TENUIFOLIA*



【科名】ヒメハギ科 *Polygalaceae*

【別名】遠志通、棘菟

【薬用部分】開花期の根、木部を抜き去り皮部のみとしたものが遠志通(肉遠志)

【主成分】トリテルペン系サポニン(オンジサポニン)、キサントン類、糖類、フェノール配糖体、脂肪油、トリテルペノイド

【薬性】気味は苦辛温、帰経は肺心腎に属す

【効能】●安神・祛痰・消癰

●鎮静、去痰、抗炎症、強壮薬として精神安定、神経衰弱、病後の不眠、動悸、気管支炎、気管支喘息に応用

●1日5gを煎服する、量が多いと悪心や嘔吐を引き起こすことがある、粉末は1日3g

●漢方では心を静め健忘を治すとして使われる

●不眠には遠志に酸棗仁と黄連を加えた方が単独で使うより効く

【出典】●遠志 气温、能く驚悸を殴ち、神を安んじ、心を鎮め、人をして多記せしむ。(薬性歌)

●遠志、一名棘菟、一名要繞、一名細草、味苦温、生川谷、治效逆傷中、補不足、除邪氣、利九竅、益智慧、耳目聰明、不忘、強志倍力、久服輕身不老、葉名小草。(神農本草經)

●遠志はその効力は専ら志を強くし、精を益し、健忘を治するに在る。蓋し精と志とは皆腎の經に蔵するもので、腎の精が不足で志氣が衰えて心に通じ得なくなる、ゆえに精神が惑ひ迷って良く物を忘れるのだ。ゆえに遠志と称する。(本草綱目)

【備考】●地上部・主に葉をを^{しょうそう}小草といい性味薬能は遠志とほぼ同じ古方ではこれを用いたが現在はすべて遠志を用いる

【処方例】●加味帰脾湯、帰脾湯、加味温胆湯、人参養榮湯